

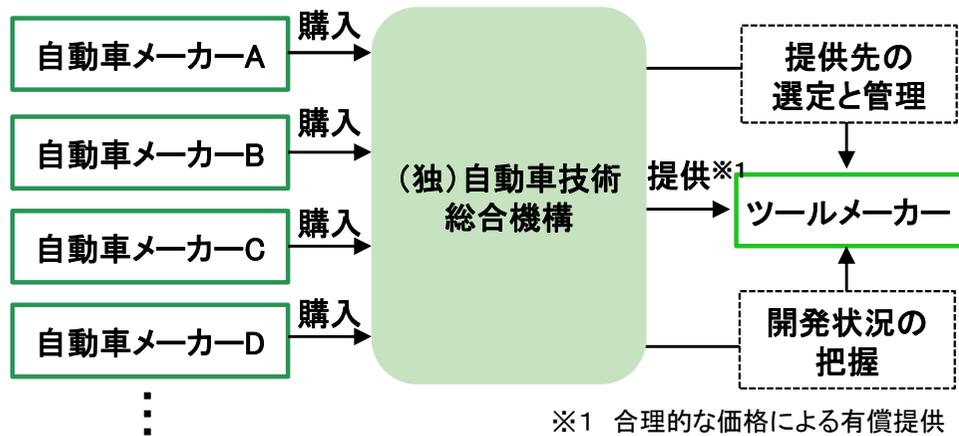
スキャンツールの機能拡充に向けた進捗状況 (「標準仕様のあり方検討WG」報告)

令和8年3月19日(木)
標準仕様のあり方検討WG

標準仕様スキャンツールの新スキーム運用

- 新スキーム運用の中核を担う第三者機関は(独)自動車技術総合機構に決定
- 運用開始に向けた準備を急ピッチで進行中(令和8年夏頃運用開始予定)

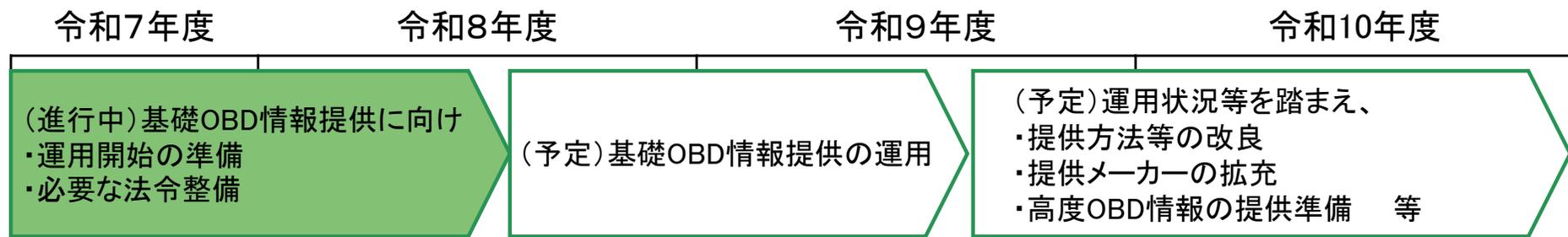
新スキームの概要(更新)



- (独)自動車技術総合機構(以下「機構」という。)が自動車メーカーから基礎OBD情報※2を一元的に購入
 - 購入する基礎OBD情報の「粒度」「フォーマット」を標準化
 - 合理的な価格での情報入手
 - 機構が契約主体となり、自動車メーカーとの契約に係るツールメーカーの負担を軽減
- 機構からツールメーカーへ基礎OBD情報を提供(有償)
 - ・ ツールメーカーの開発計画・状況を一元的に把握
 - ・ 開発状況については整備工場への情報提供も可能に

※2 「基礎OBD情報」: セキュリティ構築が不要なOBD情報

今後の予定



- ・ 令和8年夏頃に新スキームを活用した基礎OBD情報提供の運用開始を予定
- ・ 併せて、「標準機」を国が認定する制度創設を検討

純正スキャンツールの活用拡充策試験導入

- 純正スキャンツールに係る「駆け込み寺」、「短期貸出」を試験導入(令和8年度以降開始予定)
- サービスの提供にあたっては、ツールメーカーの整備拠点※等を積極的に活用

(背景)

※ ツールメーカーが保有又は提携する整備拠点

- ・ 先進安全技術等の進展に伴い、エーミング作業等、高機能なスキャンツールを必要とする機会が増加
- ・ お困りごと調査等から、汎用スキャンツールのみでは対応が困難なケースが報告されている

試験導入する施策の概要

- ✓ ツールメーカーが保有・提携する整備拠点等を純正スキャンツール活用拠点として設定
- ✓ まずは全国3地域に試験導入(運輸支局単位を想定。詳細は調整中)
- ✓ 併せて、純正スキャンツールの購入窓口の分かりやすい案内方法を検討・周知

純正スキャンツールを活用した外注サービス (駆け込み寺)

- OBD検査対象車(国産全メーカー)を対象として令和8年夏頃開始予定
- 整備事業者からの外注により純正スキャンツールを用いたサービス(エーミング作業等)を提供

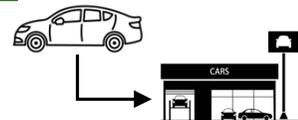
純正スキャンツールの短期貸出

- 準備が整った自動車メーカーから順次開始(令和8年度以降)
- 整備事業者からの依頼により純正スキャンツールの短期貸出サービスを提供

試験導入イメージ(調整中)


 <該当地域の整備振興会>

- ◆ 試験導入に係る周知



<整備事業者>

- ◆ 診断、整備、修理
- ◆ 純正スキャンツール活用拠点に問合せ・作業依頼



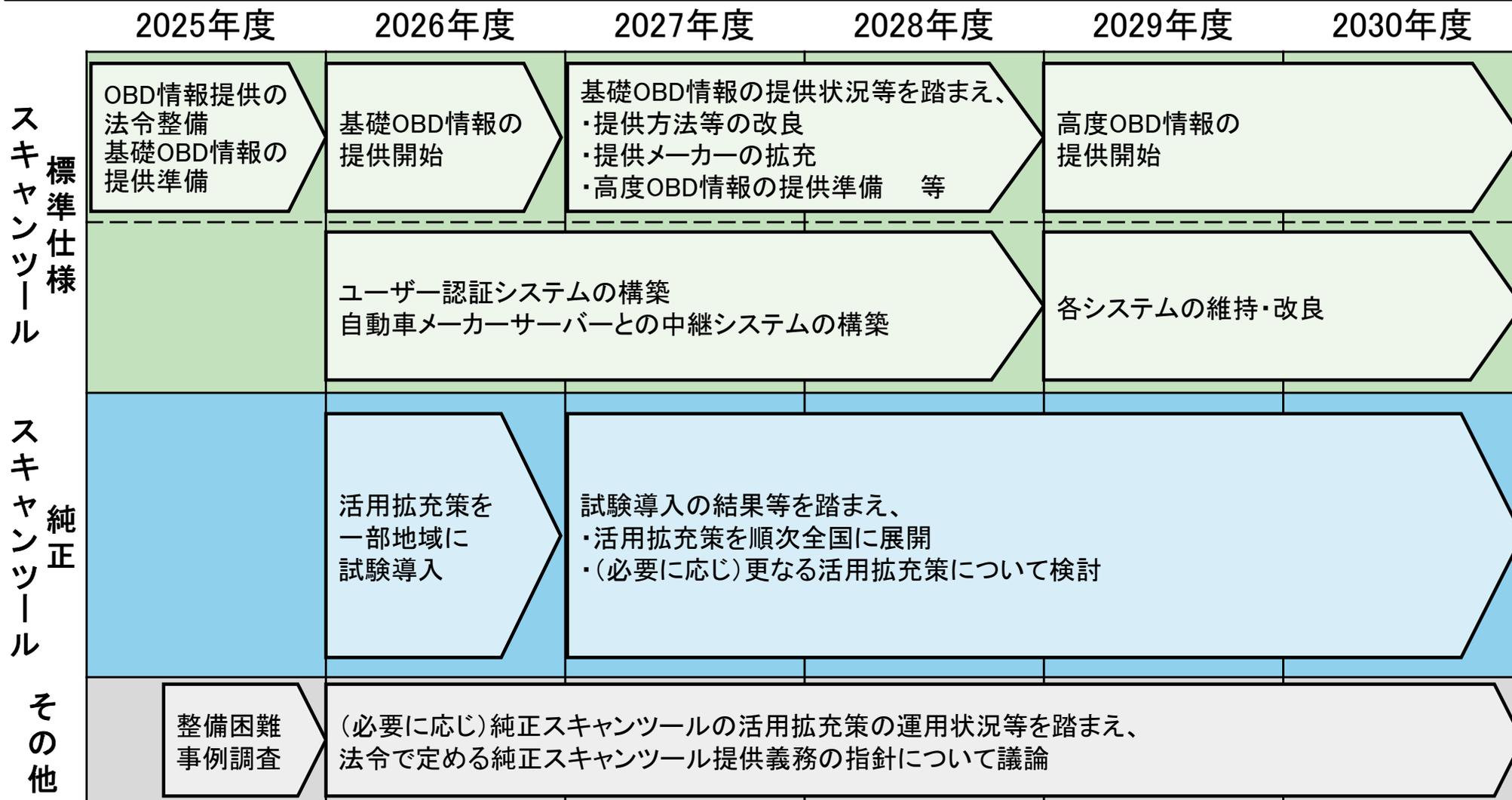
<純正スキャンツール活用拠点>

- ◆ 依頼内容の確認
- ◆ 対応方法の相談、見積り
(外注作業受入/純正スキャンツール貸出)

(参考) スキャンツールの機能拡充スケジュール(案)

第31回検討会資料4の再掲

- 高度なOBD情報(例: エーミングの情報)の開示は、セキュリティ構築を前提として行う必要
 - 第一フェーズ(令和8年度から開始予定): 基礎OBD情報のみ取り扱う(ただし、開示レベルは諸外国と同等)
 - 第二フェーズ(早期実現に向け調整中): 高度OBD情報まで拡大、ユーザー認証等のセキュリティ構築
- 並行して、純正スキャンツール※の活用拡充策を進める
 - (具体的には、) 短期貸出体制の創設又は第三者を経由したサービス提供体制の試験導入、順次拡大



※自動車メーカーがリコール等の一部機能を制限のうえ専門工場等に提供するものを「専用スキャンツール」と称するが、本資料では「純正スキャンツール」と特に区別しない。